

トリアキシンの治療を受ける方へ
治療のてびき

[監修]

畠 清彦 先生

国際医療福祉大学 三田病院
悪性リンパ腫・血液腫瘍センター長

はじめに

この冊子は、トレアキシンの治療を受けるリンパ腫の患者さん、または慢性リンパ性白血病の患者さんやそのご家族のために、病気の説明と治療法、日常生活における注意などについて解説したものです。よくお読みになってから、トレアキシンの治療に取り組みましょう。

トレアキシンの治療は、通院による治療が中心となります。このため、日常生活では患者さんご自身の自己管理がとても大切です。とくに、治療によっておこりやすい副作用の症状とその対処法についてはあらかじめ理解しておくことで、日々の不安を軽減できます。

病気や治療について、心配なこと、分からないことがあれば、遠慮なく医師、薬剤師、看護師に相談してください。

もくじ

1. 治療前の注意事項	1
2. トレアキシンのことについて	2
3. リンパ腫とその治療	3
4. 慢性リンパ性白血病とその治療	15
5. トレアキシンの副作用	20
6. 主な副作用とその対策	21
7. (参考)高額療養費制度	35
トレアキシンの治療関連用語集	37
治療日誌	40
受診時に伝えたいこと・質問したいことのメモ	67

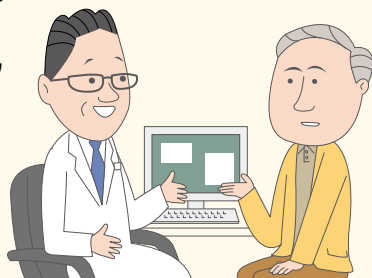
1. 治療前の注意事項

以下の患者さんはトレアキシンの治療が受けられません。
該当する患者さんは主治医にお申し出ください。

- トレアキシンを投与してアレルギー症状が出たことがある患者さん
- 妊娠中または妊娠している可能性のある患者さん

以下の患者さんはトレアキシンの治療の際に注意が必要です。
該当する患者さんは主治医にお申し出ください。

- 虫歯、風邪などの感染症のある患者さん
- しんきんこうそく心筋梗塞などの心疾患、またはその既往歴がある患者さん
- 肝機能障害のある患者さん
- 腎機能障害のある患者さん
- 妊娠を希望される患者さん



2. トレアキシンについて

トレアキシンはどんな薬？

トレアキシンは、がん細胞の遺伝子(DNA)と結合してその合成を阻害し、がん細胞を殺す働きをもつ抗がん剤です。

トレアキシンの対象となる患者さんは？

①～③の方が対象となります。病気とその治療についてはそれぞれの解説ページをご覧ください。

①以下のリンパ腫の患者さん

- 低悪性度B細胞性非ホジキンリンパ腫
小リンパ球性リンパ腫、MALTリンパ腫、
ろ胞性リンパ腫(グレード1～3a)、脾辺縁帯^{ひへんえんたい}B細胞リンパ腫、
リンパ形質細胞^{けいしつさいぼう}リンパ腫、節性辺縁帯^{せつせいへんえんたい}B細胞リンパ腫
- マントル細胞リンパ腫
- 再発又は難治性のびまん性大細胞型B細胞リンパ腫

➡ 3～13ページをご覧ください。

②腫瘍特異的T細胞輸注療法の前処置としてトレアキシン治療を受ける患者さん

➡ 14ページをご覧ください。

③慢性リンパ性白血病の患者さん

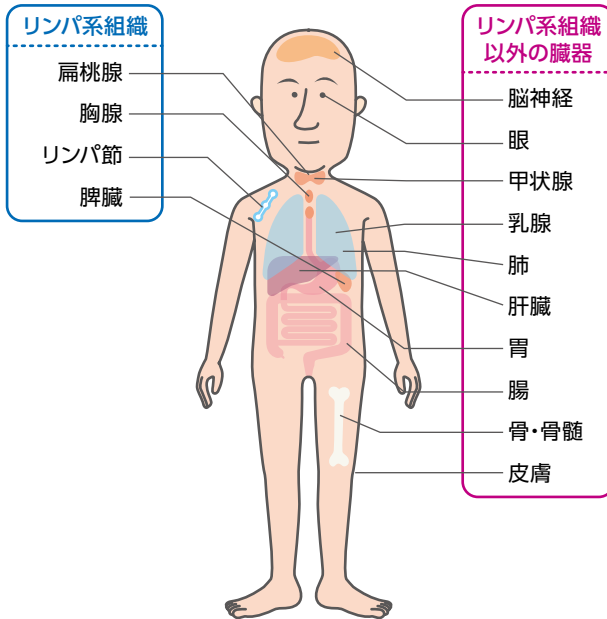
➡ 15～19ページをご覧ください。

3. リンパ腫とその治療

リンパ腫とは

リンパ腫とは、リンパ球(血液中の白血球の一種)という、免疫の働きをする細胞が、がん化しておきる血液の病気です。リンパ球は血液やリンパ液を介して全身を回る性質があり、リンパ球から生じる病気であるリンパ腫も全身のさまざまな部位で生じる可能性があります。

[リンパ腫が生じる部位]



患者さん自身が気づくことがある主な症状には、首やわきの下、足の付け根などのリンパ節の腫れやしこりがあります。進行すると発熱、体重減少、ひどい寝汗といった全身的な症状があらわれることがあります。

非ホジキンリンパ腫の分類

リンパ腫はホジキンリンパ腫と非ホジキンリンパ腫に大別され、非ホジキンリンパ腫は病気の進む速さによって以下のように3つに分けられます。

◎非ホジキンリンパ腫のうち、B細胞性リンパ腫のみを掲載しています。
B細胞については16ページの「造血のしくみ」をご参考ください。

悪性度 (病気の進む速さ)	種類
低悪性度 (年単位で進行)	小リンパ球性 MALT(マルト) ろ胞性(グレード1~3a) <small>ひ へん えん た い</small> 脾辺縁帯B細胞 <small>けい し つ さい ぼう</small> リンパ形質細胞 <small>せ つ せい へん えん た い</small> 節性辺縁帯B細胞
中悪性度 (月単位で進行)	形質細胞腫瘍 マントル細胞 ろ胞性(グレード3b) びまん性大細胞型B細胞
高悪性度 (週単位で進行)	<small>ぜん く</small> 前駆Bリンパ芽球性 バーキット

トリアキシン治療の対象は表の赤字の非ホジキンリンパ腫です。

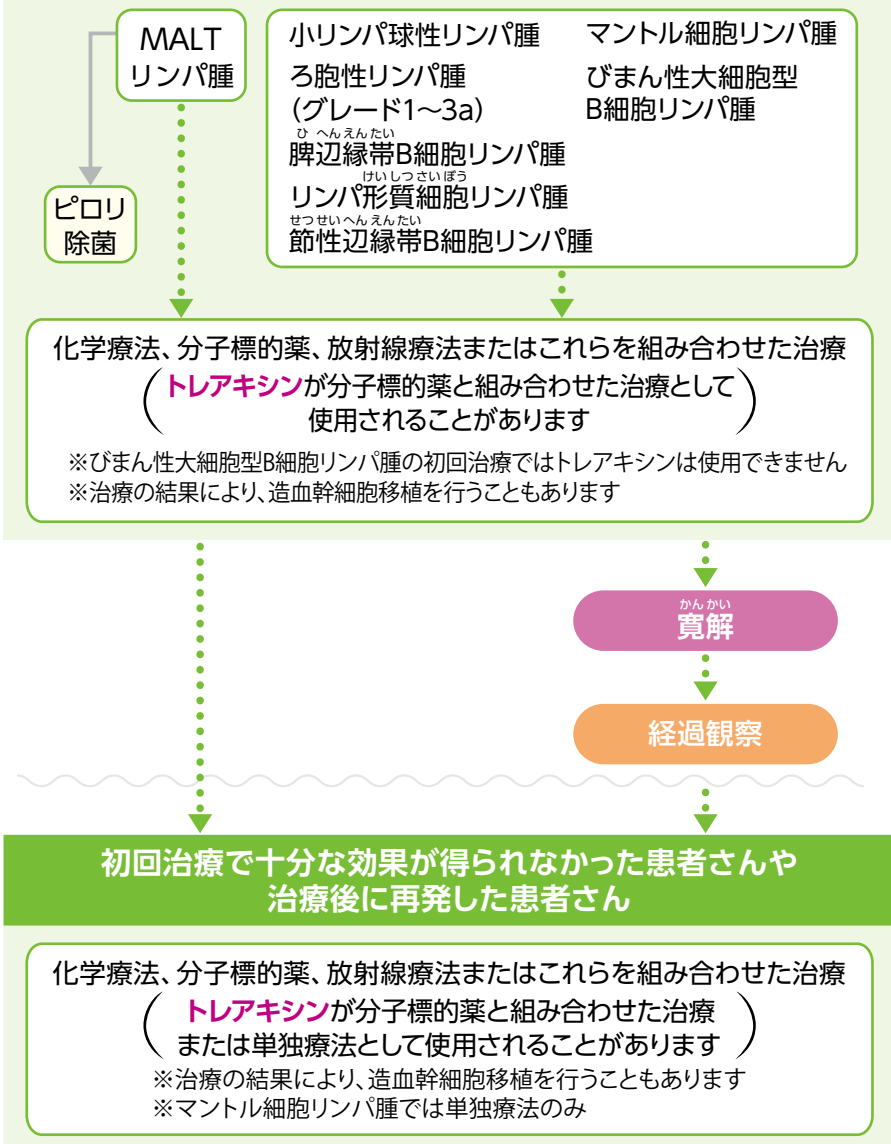
初回治療

- 抗がん剤による化学療法や分子標的薬による治療、放射線療法、またはこれらを組み合わせた治療が中心となります。
- 治療方針は、病気の進む速さや広がり、患者さんの年齢や全身状態など、一人ひとりの病状に応じて選択します。

初回治療で十分な効果が得られなかった患者さんや治療後に再発した患者さん

- 再発までの年数やリンパ腫の種類を考慮して治療を選択します。
- 再発までの期間が短い場合は、これまでの治療が効きにくい可能性があり、別の治療法を選択する場合があります。
- 数年以上たってから再発した場合は、前回と同じ治療をもう一度行う場合もあります。

初回治療



トレアキシンの投与方法は？

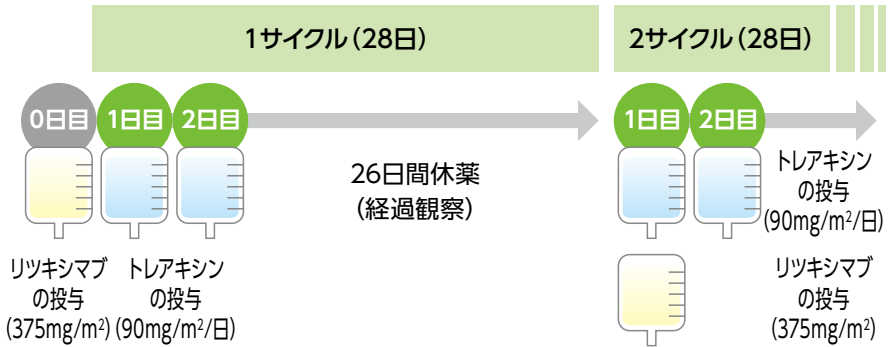
〈低悪性度B細胞性非ホジキンリンパ腫の場合〉

- 抗CD20抗体(分子標的薬)と組み合わせて投与します。投与方法については、主治医の指示に従ってください。
注：初回治療で十分な効果が得られなかった場合や治療後に再発した場合は単独療法も選択されます。
- トレアキシンは1日1回、10分または1時間*かけて静脈内に点滴投与します。投与は2日間連日行い、26日間休薬します。
- 点滴する日(最初の2日間)と休薬する日(3～28日目の26日間)を組み合わせた4週間をひと区切り(1サイクル)とし、このサイクルを何回か繰り返します。
- なお、投与量や治療の回数、休薬期間については患者さんの状態に応じて変更します。

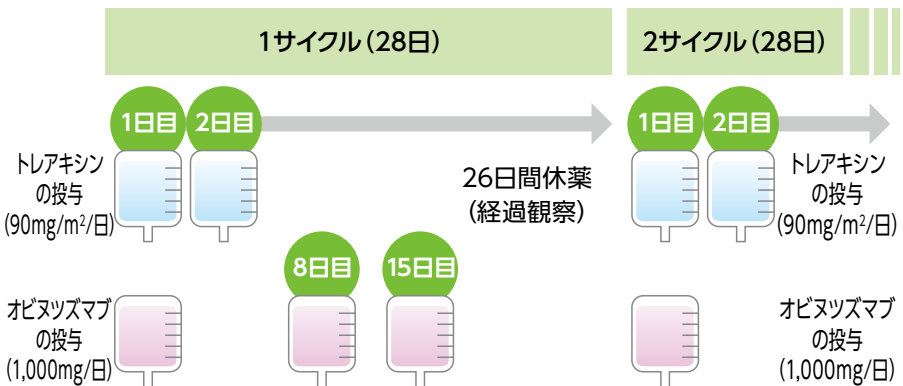
*凍結乾燥製剤は1時間投与のみ

3. リンパ腫とその治療

●抗CD20抗体リツキシマブと併用する場合の投与例
(国内の臨床試験で実施された投与方法です。)



●抗CD20抗体オビヌツズマブと併用する場合の投与例(ろ胞性リンパ腫のみ)
(海外及び国内の臨床試験で実施された投与方法です。)



注: オビヌツズマブと併用の場合6サイクル

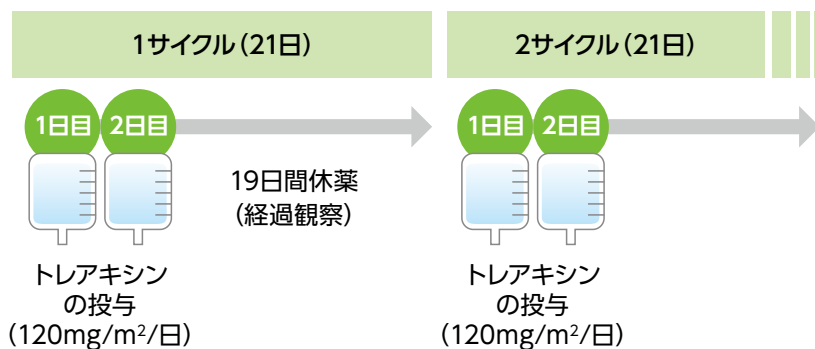
〈低悪性度B細胞性非ホジキンリンパ腫で単独療法が〉 〈選択された場合〉

- 初回治療で十分な効果が得られなかった患者さん
- 治療後に再発した患者さん

- トレアキシンは1日1回、10分または1時間*かけて静脈内に点滴投与します。投与は2日間連日行い、19日間休薬します。
- 点滴する日(最初の2日間)と休薬する日(3~21日目の19日間)を組み合わせた3週間をひと区切り(1サイクル)とし、このサイクルを何回か繰り返します。
- なお、投与量や治療の回数、休薬期間については患者さんの状態に応じて変更します。

*凍結乾燥製剤は1時間投与のみ

●投与例



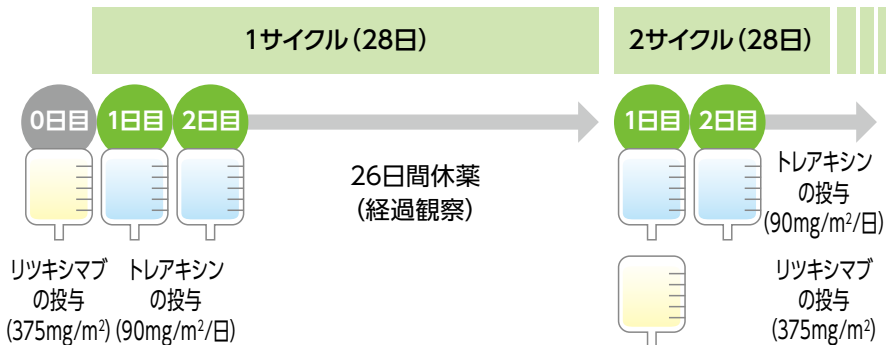
〈マントル細胞リンパ腫の場合〉

・初回治療の患者さん

- リツキシマブ(分子標的薬)と組み合わせて投与します。リツキシマブの投与方法については、主治医の指示に従ってください。
- トレアキシンは1日1回、10分または1時間*かけて静脈内に点滴投与します。投与は2日間連日行い、26日間休薬します。
- 点滴する日(最初の2日間)と休薬する日(3~28日目の26日間)を組み合わせた4週間をひと区切り(1サイクル)とし、このサイクルを何回か繰り返します。
- なお、投与量や治療の回数、休薬期間については患者さんの状態に応じて変更します。

*凍結乾燥製剤は1時間投与のみ

●投与例(国内の臨床試験で実施された投与方法です。)



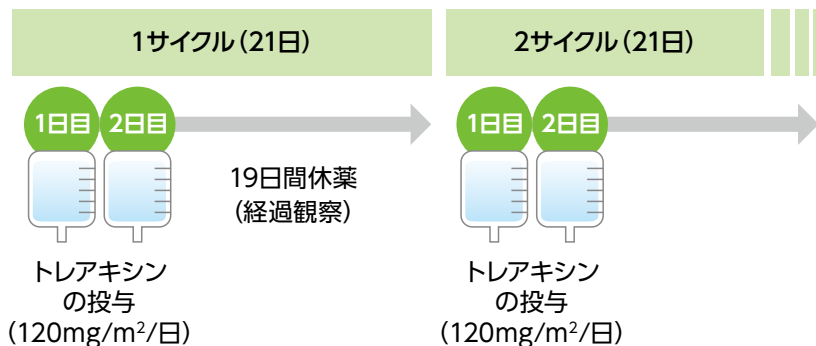
〈マントル細胞リンパ腫の場合〉

- 初回治療で十分な効果が得られなかった患者さん
- 治療後に再発した患者さん

- トレアキシンは1日1回、10分または1時間*かけて静脈内に点滴投与します。投与は2日間連日行い、19日間休薬します。
- 点滴する日(最初の2日間)と休薬する日(3～21日目の19日間)を組み合わせた3週間をひと区切り(1サイクル)とし、このサイクルを何回か繰り返します。
- なお、投与量や治療の回数、休薬期間については患者さんの状態に応じて変更します。

*凍結乾燥製剤は1時間投与のみ

●投与例



〈びまん性大細胞型B細胞リンパ腫の場合〉

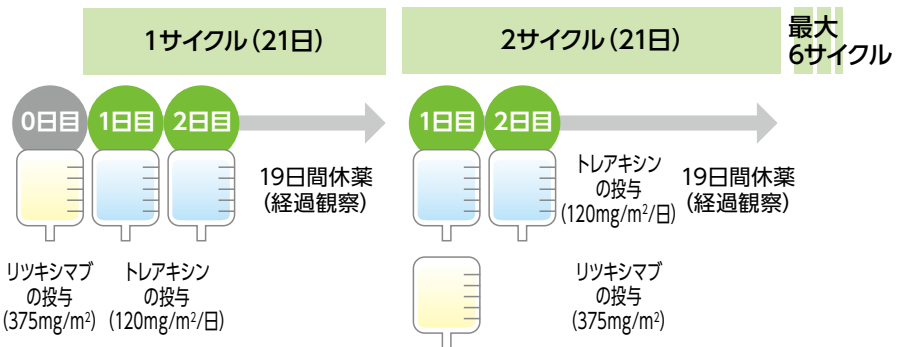
- ・ 初回治療で十分な効果が得られなかった患者さん
- ・ 治療後に再発した患者さん

リツキシマブ併用の場合

- リツキシマブ(分子標的薬)と組み合わせて投与します。
- トレアキシンは1日1回、10分または1時間*かけて静脈内に点滴投与します。
- トレアキシンの投与は2日間連日行い、19日間休薬します。
- 点滴する日(最初の2日間)と休薬する日(3~21日目の19日間)を組み合わせた3週間をひと区切り(1サイクル)とし、このサイクルを何回か繰り返します。(最大6サイクル)
- なお、投与量や治療の回数、休薬期間については患者さんの状態に応じて変更します。

*凍結乾燥製剤は1時間投与のみ

●リツキシマブと併用する場合の投与例

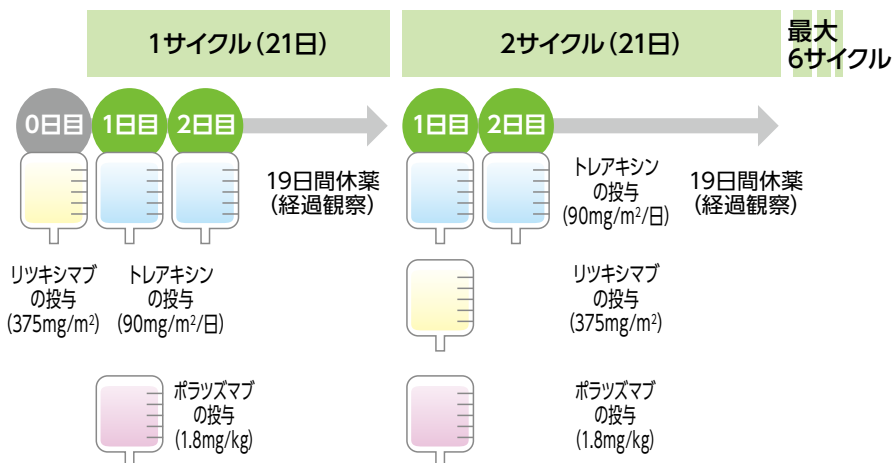


リツキシマブ、ポラツズマブ ベドチン併用の場合

- リツキシマブ(分子標的薬)、ポラツズマブ ベドチンと組み合わせて投与します。リツキシマブ、ポラツズマブ ベドチンの投与方法については主治医の指示に従ってください。
- トレアキシンは1日1回、10分または1時間*かけて静脈内に点滴投与します。
- トレアキシンの投与は2日間連日行い、19日間休薬します。
- 点滴する日(最初の2日間)と休薬する日(3~21日目の19日間)を組み合わせた3週間をひと区切り(1サイクル)とし、このサイクルを何回か繰り返します。(最大6サイクル)
- なお、投与量や治療の回数、休薬期間については患者さんの状態に応じて変更します。

*凍結乾燥製剤は1時間投与のみ

●リツキシマブ、ポラツズマブ ベドチンと併用する場合の投与例



〈腫瘍特異的T細胞輸注療法の前処置で トリアキシン治療を受ける場合〉

- 再生医療等製品の用法及び用量または使用方法に基づき使用します。
- 投与方法については、主治医の指示に従ってください。

4. 慢性リンパ性白血病とその治療

慢性リンパ性白血病とは

慢性リンパ性白血病は、白血球の一種であるリンパ球のうち、B細胞が、がん化しておきる血液の病気です。

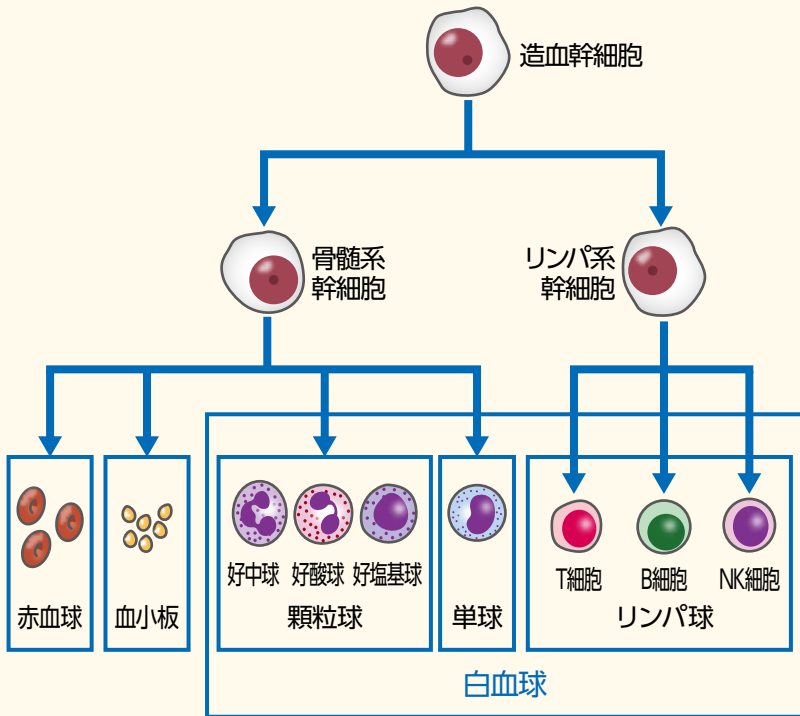
発症してもゆっくり進行するため、初めはほとんど症状がありません。

症状がある場合は、倦怠感、食欲不振、寝汗を伴う微熱、体重減少などがみられることがあります。

また、患者さん自身が気づくことがある主な症状には、首やわきの下、足の付け根などのリンパ節の腫れやしこりがあります。

造血のしくみ

血液中には、細菌やウイルスから身体を守る白血球、酸素を運ぶ赤血球、出血を止める血小板などの役割を持つ血液細胞が含まれています。これらは、骨髄に存在する造血幹細胞が成長しながら増殖することによってつくられています。



初回治療

- 抗がん剤による化学療法や分子標的薬による治療が中心で、どちらか一方の単独療法か、これらを組み合わせた多剤併用療法を行います。
- 染色体検査の結果によって特徴的な染色体異常が見つかった場合は、ドナーから造血幹細胞の移植を行うこともあります。

初回治療で十分な効果が得られなかった患者さんや治療後に再発した患者さん

- それぞれの患者さんの状況に応じて治療の方針が決定されます。
- 前回の治療で、単独療法を行っていた場合には多剤併用療法が、抗がん剤による多剤併用療法を行っていた場合には、分子標的薬を加えて強度を上げた治療が検討されます。
- 治療の結果により、造血幹細胞の移植を行うこともあります。

4. 慢性リンパ性白血病とその治療

初回治療

病状に応じた治療方針の決定

単独療法または
通常より減量した多剤併用療法

化学療法、分子標的薬
(**トレアキシン**が単独療法として使用)
されることがあります

通常が多剤併用療法

化学療法、分子標的薬
※染色体検査の結果によっては、
造血幹細胞移植を行うこともあります

寛解

経過観察

初回治療で十分な効果が得られなかった患者さんや
治療後に再発した患者さん

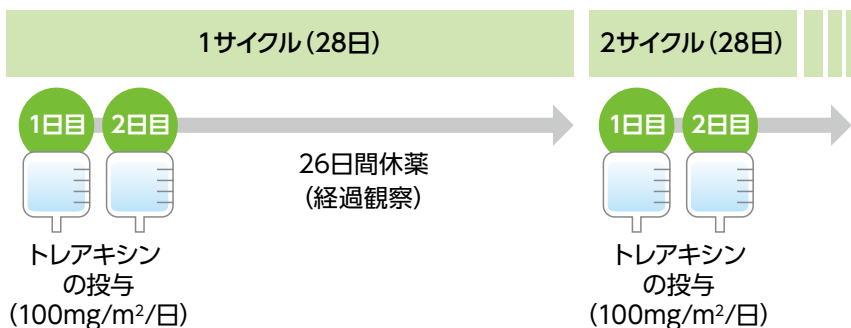
化学療法、分子標的薬
またはこれらを組み合わせた治療
(**トレアキシン**が単独療法として使用されることがあります)
※治療の結果により、造血幹細胞移植を行うこともあります

トレアキシンの投与方法は？

- トレアキシンは1日1回、10分または1時間*かけて静脈内に点滴投与します。投与は2日間連日行い、26日間休薬します。
- 点滴する日(最初の2日間)と休薬する日(3～28日目の26日間)を組み合わせた4週間をひと区切り(1サイクル)とし、このサイクルを何回か繰り返します。
- なお、投与量や治療の回数、休薬期間については患者さんの状態に応じて変更します。

*凍結乾燥製剤は1時間投与のみ

●投与例

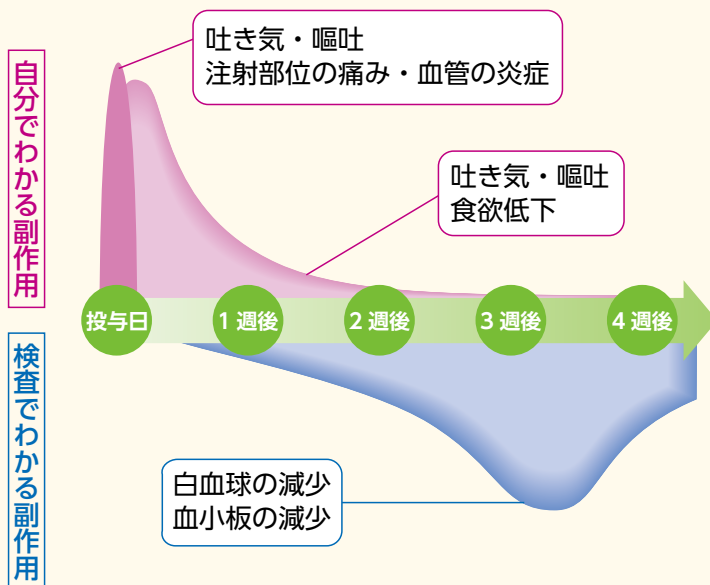


5. トレアキシンの副作用

トレアキシンは、がん細胞だけでなく正常な細胞にも作用するため、治療期間中ほとんどの患者さんに副作用が発現します。発現の程度は個人差があります。

[主な副作用とその発現時期]

主な副作用として、骨髄抑制による^{こっすいよくせい}白血球の減少、血小板の減少や、^{おうと}吐き気・嘔吐、食欲低下などの消化器症状のほか、皮膚の異常、注射部位の痛み・血管の炎症などが報告されています。



副作用には個人差がみられます。上記以外の症状があった場合でも、気がかりな症状がみられたときは医師、薬剤師、看護師に伝えてください。

6. 主な副作用とその対策

① 感染症(白血球の減少)

白血球は、細菌やウイルスからからだを守る働きをしています。白血球が少なくなると、体の免疫機能が低下し、感染症をおこしやすくなります。自覚症状がみられなくても感染症の予防に努めましょう。

発現時期

個人差がありますが、投与後1～2週間ごろから減少しはじめます。

感染症が疑われる症状

- 38℃以上の発熱
- 寒気、ふるえ
- 咳、のどの痛み
- 排尿時の痛み
- 腹痛、下痢 など



対策

- ✓ 医師の指示通り定期的に検査を受け、白血球の数値に関心を持ちましょう。
- ✓ 毎日1回は体温を測りましょう。
- ✓ 手洗い、うがい(外出時、食事の前、トイレの前後)をこまめにしましょう。
- ✓ 歯磨き、入浴、陰部・肛門部などからだを清潔に保ちましょう。
- ✓ 外出時はマスクを着用し、人ごみを避けましょう。
- ✓ 風邪をひいている人にはなるべく近づかないようにしましょう。
- ✓ 切り傷に気をつけ、ひげそりは電気カミソリを使用しましょう。
- ✓ 白血球が下がっているときは、食物からの感染を予防するため、新鮮な食品を選び、生野菜や果物はよく洗ってから食べましょう。

こんな時は病院へ連絡を

- 38℃以上の発熱があり、感染症を疑う症状があるが、薬を事前に処方されていない。
- 38℃以上の発熱があり、薬を使用しても熱が下がらない。

2 出血(血小板の減少)

血小板は、血管が傷ついたときに出血を止める働きをしています。血小板が少なくなると、出血しやすくなったり、出血が止まりにくくなったりすることがあります。

発現時期

個人差がありますが、投与後1～2週間ごろから減少しはじめます。

出血傾向が疑われる症状

- 内出血
- 急な鼻血や口の中からの出血、血便、血尿
- 激しい頭痛と吐き気
- 採血や点滴後に血が止まりにくい など



対策

- ✓ 転倒による打撲や外傷、刃物による切り傷などに注意しましょう。
- ✓ 歯を磨く際は、歯茎を傷つけないようにしましょう。
- ✓ しめつける衣服は避けましょう。
- ✓ 排便時には、いきまないようにしましょう。



こんな時は病院へ連絡を

- 出血が止まらない。
- ぶつけてもいないのにアザができており、徐々に広がっている。
- 血便、血尿がある。
- 頭部を強く打ち、激しい頭痛と吐き気がある。

3 貧血(ヘモグロビンの減少)

血液中のヘモグロビンが少なくなると貧血になり、だるく疲れやすく、めまいや息切れなどの症状があらわれることがあります。

発現時期

個人差がありますが、投与後数週～数ヵ月ごろから減少しはじめます。

主な症状

- ふらつき、めまい、立ちくらみ
- 頭痛、耳鳴り
- 息切れ、動悸
- 顔色が悪い、爪が白い、手足が冷たい など



対策

- ✓ 医師の指示通り定期的に検査を受け、ヘモグロビンなどの数値に関心を持ちましょう。
- ✓ 外出、仕事、家事などは無理をせず、十分に休息をとりましょう。
- ✓ 長時間の入浴など、のぼせる行為は避けましょう。

こんな時は病院へ連絡を

- めまいや頭痛がよくならない。
- ふらつき、息切れ、動悸、脈が速いなどの症状がみられる。

4 アレルギー類似症状

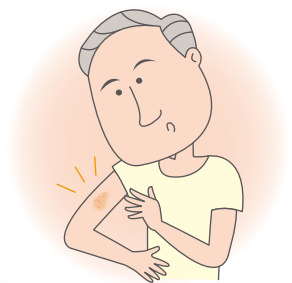
発疹、かゆみなどの皮膚症状、発熱、悪寒などのアレルギーに似たような症状があらわれることがあります。

発現時期

投与後すぐにおこることもありますが、投与後数日たってからおこることもあります。発現時期については一定の傾向はありません。

主な症状

- 発疹、かゆみ
- のどの違和感、鼻が詰まった感じ
- 胸の重苦しさ、息苦しさ、動悸、脱力感
- くしゃみ、咳
- 寒気、ふるえ など



5 注射部位の痛み・血管の炎症

注射部位、または注射部位を中心に腕に広がる痛みや炎症があらわれることがあります。

発現時期

個人差がありますが、ほとんどは投与中にあらわれます。

主な症状

- 注射部位の痛み、炎症
- 注射部位を中心とした周辺の痛み、炎症 など



対策

- ✓ 投与後、痛みや炎症があらわれた場合は、腕を温めると痛みが緩和されることがあります。

※投与中に薬剤が血管の外に出てしまい、痛み、炎症がおこることがあります。痛みがあるときはがまんせずに、お申し出ください。



こんな時は病院へ連絡を

- 痛みが強い場合や、炎症がひかない場合は連絡してください。

6 消化器症状 (吐き気・嘔吐、 食欲低下など)

薬の影響で吐き気・嘔吐おうとや食欲低下などの消化器症状があらわれることがあります。

発現時期

吐き気・嘔吐は、一般的に投与直後～24時間以内にあられるほか、24時間以降にあられることもあります。
その他の消化器症状は、発現時期に一定の傾向はありません。

主な症状

- 吐き気・嘔吐
- 食欲低下
- 下痢、便秘 など



対策

- ✓ からだが楽な衣服を着ましょう。
- ✓ 室内の換気をし、気になる臭いを除去しましょう。
- ✓ 食べるのがつらいときは、無理に食べずに食べたいものや食べられるものを少しずつ食べましょう。

※吐き気・嘔吐の症状を軽減するために、治療前より吐き気止めを使用することがあります。



こんな時は病院へ連絡を

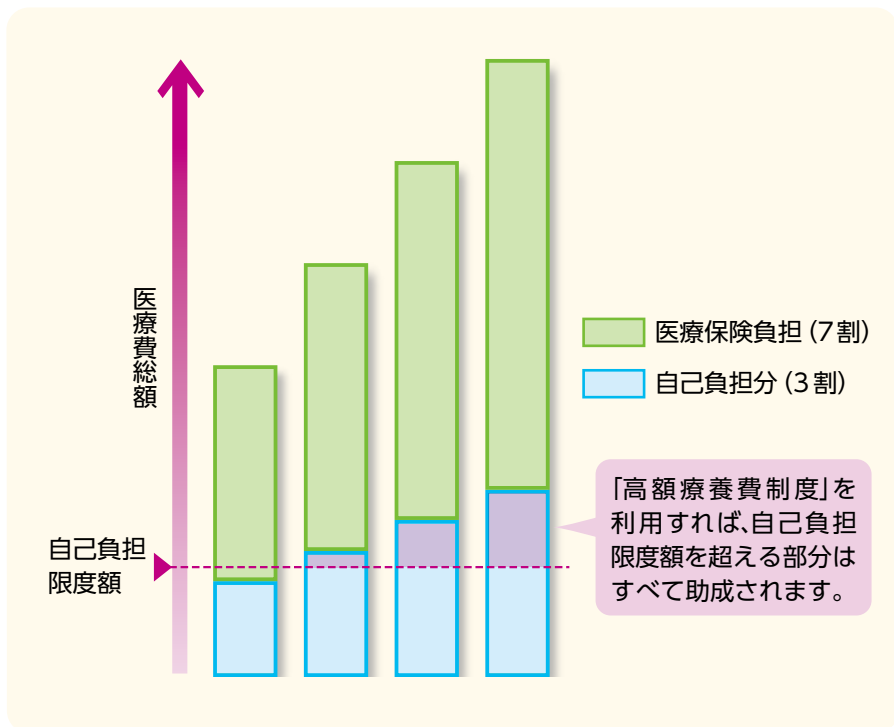
- 吐き気・嘔吐が長く続き、つらい。
- 食事や水分がほとんど摂れない。

その他の注意事項

- 処方された薬以外の薬を服用する場合は、医師または薬剤師に相談してください。
(なかには、血が止まりにくくなったり、胃がむかついたりする薬など、注意が必要な薬があります)
- 以下の患者さんは必ず主治医にお申し出ください。
 - 薬や食べ物のアレルギーがある患者さん
 - 飲んでいる薬がある患者さん
 - 今までに薬による副作用を経験したことのある患者さん
 - サプリメントなどを飲んでいる患者さん

7. (参考) 高額療養費制度

- 医療費が高額になってしまう場合、患者さんの自己負担を軽減するしくみが「高額療養費制度」です。
- 患者さんの年齢・所得・医療保険の種類などの各状況に応じて1ヵ月あたりの自己負担額の上限が決定され、その限度額を超えた分がすべて助成されます。



手続きの方法などは医療機関や医療保険の種類によって異なります。また、この制度により助成されない医療費もあります。詳細については、治療を受けている医療機関や加入している医療保険窓口(保険証に記載された連絡先)にご確認ください。

自己負担限度額の算出方法

自己負担額の上限は年齢や所得によって変わります。

<69歳以下の場合>

所得区分	1～3回目	4回目以降
年収約1,160万円～ 健保：標準報酬月額83万円以上 国保：旧ただし書き所得が901万円超	252,600円 + (医療費－842,000)×1%	140,100円
年収約770万～約1,160万円 健保：標準報酬月額53万～79万円 国保：旧ただし書き所得が600万～901万円	167,400円 + (医療費－558,000)×1%	93,000円
年収約370万～約770万円 健保：標準報酬月額28万～50万円 国保：旧ただし書き所得が210万～600万円	80,100円 + (医療費－267,000)×1%	44,400円
～年収約370万円 健保：標準報酬月額26万円以下 国保：旧ただし書き所得が210万円以下	57,600円	
住民税非課税者	35,400円	24,600円

<70歳以上の場合>

所得区分	ひと月の負担の上限	
	外来(個人ごと)	通院+入院(世帯ごと)
年収約1,160万円～ 標準報酬月額83万円以上 課税所得690万円以上	252,600円+(医療費－842,000)×1% <多数回 140,100円 ※2>	
年収約770万～約1,160万円 標準報酬月額53万～79万円 課税所得380万円以上	167,400円+(医療費－558,000)×1% <多数回 93,000円 ※2>	
年収約370万～約770万円 標準報酬月額28万～50万円 課税所得145万円以上	80,100円+(医療費－267,000円)×1% <多数回 44,400円 ※2>	
年収156万～約370万円 標準報酬月額26万円以下 課税所得145万円未満(※1)	18,000円 (年間上限144,000円)	57,600円 <多数回 44,400円 ※2>
II 住民税非課税世帯 (80万～160万円)	8,000円	24,600円
I 住民税非課税世帯 (年金収入80万円以下など)		15,000円

※1：世帯収入の合計額が520万円未満(1人世帯の場合は383万円未満)の場合や、「旧ただし書き所得」の合計額が210万円以下の場合も含まれます。

※2：過去12ヵ月以内に3回以上、上限額に達した場合は、4回目から「多数回」該当となり、上限額が下がります。

※2021年3月現在



トリアキシン治療関連用語集

トリアキシンによる治療中、よく耳にする用語を解説します。

FDG-PET 検査

【えふでいーじー・ぺっとけんさ】

リンパ腫には、他のがんと同じようにブドウ糖をたくさん取りこむ性質があります。この性質を利用して、体に放射性ブドウ糖液を注射して、全身のどこにリンパ腫があるかを調べます。

寛解

【かんかい】

症状が一時的に軽くなったり、消えたりした状態。このまま治る可能性もありますが、再発する可能性もあります。

QOL

【きゅー・おー・える】

quality of lifeの略で、治療を受ける患者さんの肉体的、精神的、社会的、経済的、すべてを含めた生活の質を意味します。

血小板

【けっしょうばん】

血液中の血液細胞の1種であり、出血を止める役割があります。血管が破れて出血した場合、血小板が破れた部位に付着し、その血小板から出された物質により血小板の凝集が進み、血栓がつくられ止血します。

骨髄検査 (骨髄穿刺)

【こつずいけんさ】

【こつずいせんし】

胸骨、もしくは腰にある腸骨に針を刺して、骨の中にある骨髄組織をとる検査。胸骨もしくは腸骨から注射器で骨の中の骨髄組織を吸引する穿刺吸引法と、腸骨に太めの針を刺し、骨髄組織を針の中に捉えて一部を採取する針生検法があります。

骨髄抑制

【こつずいよくせい】

抗がん剤の副作用の1つで、血液細胞をつくる働きが低下すること。白血球が減ったり(白血球減少)、赤血球が減ったり(貧血)、血小板が減ったり(血小板減少)、また、それぞれに応じた症状が出現します。

腫瘍

【しゅりゅう】

こぶ、固まりのこと。腫瘍性のものや炎症性のものがあります。

ステージ

【すてーじ】

病期分類ともいい、がんの大きさや他の臓器への広がり方などでがんを分類し、がんの進行の程度を判定するための基準です。

生検

【せいけん】

びょうそう
病巣の一部をメスや針などで取って、顕微鏡などで調べる検査です。病気を正確に診断するために行います。

造血幹細胞

【ぞうけつかんさいぼう】

骨の中の骨髄にある血液の源となる細胞。この細胞はあらゆる血液細胞のもとになると同時に、この細胞自身も自分のコピーを造ることができます。

造血幹細胞移植

【ぞうけつかんさいぼういしょく】

大量化学療法や通常より強い放射線療法などを行った後、造血機能を回復させるために、事前に採取した造血幹細胞を移植する治療。患者さん自身の造血幹細胞を用いる「自家移植」と、血縁者などの提供者(ドナー)の造血幹細胞を用いる「同種移植」があります。

奏効

【そうこう】

治療の効きめがあらわれること。

白血球

【はっけつきゅう】

血液中の血液細胞の1種であり、細菌、ウイルス、真菌(カビ)といった外敵やがんから身体を守る働きをしています。顆粒球、かりゅうきゅう単球、リンパ球などの種類があります。

予後

【よご】

病気に対する治療を行ったあと、病状がどのような経過をたどるかの予測、見通しのこと。病気の進行具合、治療の効果、生存できる確率など、すべてを含めた見通しです。

リンパ節

【りんぱせつ】

全身の組織から集まったリンパ液が流れるリンパ管の途中にあり、細菌、ウイルス、腫瘍細胞などをチェックし、免疫応答を発動する「関所」のような機能を持っています。リンパ節は、1～3cmの大きさで、中には免疫担当細胞であるリンパ球が集まっています。

～ 治療日誌 ～

治療の記録をつけましょう

トレアキシンの治療は、通院での治療が中心となります。このため、日常生活では患者さんご自身の自己管理がとても大切です。

この治療日誌を活用し、治療の予定と記録を管理しましょう。気になる症状があったら、治療ダイアリーに記録して、次回の診察で医師、薬剤師、看護師に伝えましょう。

記録のポイント

- あとで読み返せるように、医師、薬剤師、看護師の説明を紙に書いてもらったり、自分でメモを取るようにしましょう。
- 治療についての具体的な予定を聞いておきましょう。
- 病気や治療について心配なことがあればメモを取り、遠慮せずに医師、薬剤師、看護師に見せましょう。
- いつでも連絡ができる病院の電話番号を聞いて、メモを取っておきましょう。

治療ダイアリー記入例

治療や体調について、記録をつけていきましょう。

例

トレアキシンの投与を始めた日を
1日目として、日数を記入しましょう。

体温は、毎日同じ時間に
測りましょう。

3 サイクル

日付	12月 1日	12月 2日	12月 3日
治療からの日数	1日目	2日目	3日目
診察日は空欄に○をつけましょう	○	○	○
体温	36.5℃	36.4℃	36.5℃
食欲	○ △ ×	○ △ ⊗	○ △ ×
吐き気	あり・なし	あり・なし	あり・なし
皮膚の異常	あり・なし ()	あり・なし ()	あり・なし ()
体調の変化や気になること	点滴の後、しばらくたるとさが続いた。 吐き気が強かった。		

血液検査の結果を記入しましょう。

食欲があったら○、
食欲があまりなかったら△、
全く食欲がなかったら×印に
○をつけましょう。

12月 4日	12月 5日	12月 6日	12月 7日	血液検査
4日目	5日目	6日目	7日目	12月 1日
36.4℃	36.2℃	36.0℃	36.1℃	ヘモグロビン
○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×	14.0 g/dl
あり・なし	あり・なし	あり・なし	あり・なし	白血球数
()	()	()	()	5,000 /μl
食欲が 出てきた。				血小板数
				245,000 /μl

サイクル

日付	月 日	月 日	月 日	
治療からの日数	日目	日目	日目	
診察日は空欄に○をつけましょう				
体温	℃	℃	℃	
食欲	○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×	
吐き気	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
皮膚の異常	あり・なし ()	あり・なし ()	あり・なし ()	
体調の変化や気になること				

サイクル

日付	月 日	月 日	月 日	
治療からの日数	日目	日目	日目	
診察日は空欄に○をつけましょう				
体温	℃	℃	℃	
食欲	○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×	
吐き気	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
皮膚の異常	あり・なし ()	あり・なし ()	あり・なし ()	
体調の変化や気になること				

月	日	月	日	月	日	月	日	
日目		日目		日目		日目		
℃		℃		℃		℃		
○	△	×	○	△	×	○	△	×
あり・なし		あり・なし		あり・なし		あり・なし		
あり・なし ()		あり・なし ()		あり・なし ()		あり・なし ()		

血液検査

月 日

ヘモグロビン

$\frac{\text{g}}{\text{dL}}$

白血球数

$\frac{1}{\mu\text{L}}$

血小板数

$\frac{1}{\mu\text{L}}$

月	日	月	日	月	日	月	日	
日目		日目		日目		日目		
℃		℃		℃		℃		
○	△	×	○	△	×	○	△	×
あり・なし		あり・なし		あり・なし		あり・なし		
あり・なし ()		あり・なし ()		あり・なし ()		あり・なし ()		

血液検査

月 日

ヘモグロビン

$\frac{\text{g}}{\text{dL}}$

白血球数

$\frac{1}{\mu\text{L}}$

血小板数

$\frac{1}{\mu\text{L}}$

サイクル

日付	月 日	月 日	月 日	
治療からの日数	日目	日目	日目	
診察日は空欄に○をつけましょう				
体温	℃	℃	℃	
食欲	○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×	
吐き気	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
皮膚の異常	あり・なし ()	あり・なし ()	あり・なし ()	
体調の変化や気になること				

サイクル

日付	月 日	月 日	月 日	
治療からの日数	日目	日目	日目	
診察日は空欄に○をつけましょう				
体温	℃	℃	℃	
食欲	○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×	
吐き気	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
皮膚の異常	あり・なし ()	あり・なし ()	あり・なし ()	
体調の変化や気になること				

月 日	月 日	月 日	月 日
日目	日目	日目	日目
℃	℃	℃	℃
○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×
あり・なし	あり・なし	あり・なし	あり・なし
あり・なし ()	あり・なし ()	あり・なし ()	あり・なし ()

血液検査

月 日

ヘモグロビン

$\frac{g}{dl}$

白血球数

μl

血小板数

μl

月 日	月 日	月 日	月 日
日目	日目	日目	日目
℃	℃	℃	℃
○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×
あり・なし	あり・なし	あり・なし	あり・なし
あり・なし ()	あり・なし ()	あり・なし ()	あり・なし ()

血液検査

月 日

ヘモグロビン

$\frac{g}{dl}$

白血球数

μl

血小板数

μl

サイクル

日付	月 日	月 日	月 日	
治療からの日数	日目	日目	日目	
診察日は空欄に○をつけましょう				
体温	℃	℃	℃	
食欲	○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×	
吐き気	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
皮膚の異常	あり・なし ()	あり・なし ()	あり・なし ()	
体調の変化や気になること				

サイクル

日付	月 日	月 日	月 日	
治療からの日数	日目	日目	日目	
診察日は空欄に○をつけましょう				
体温	℃	℃	℃	
食欲	○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×	
吐き気	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
皮膚の異常	あり・なし ()	あり・なし ()	あり・なし ()	
体調の変化や気になること				

月 日	月 日	月 日	月 日
日目	日目	日目	日目
℃	℃	℃	℃
○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×
あり・なし	あり・なし	あり・なし	あり・なし
あり・なし ()	あり・なし ()	あり・なし ()	あり・なし ()

血液検査

月 日

ヘモグロビン

$\frac{\text{g}}{\text{dl}}$

白血球数

μl

血小板数

μl

月 日	月 日	月 日	月 日
日目	日目	日目	日目
℃	℃	℃	℃
○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×
あり・なし	あり・なし	あり・なし	あり・なし
あり・なし ()	あり・なし ()	あり・なし ()	あり・なし ()

血液検査

月 日

ヘモグロビン

$\frac{\text{g}}{\text{dl}}$

白血球数

μl

血小板数

μl

サイクル

日付	月 日	月 日	月 日	
治療からの日数	日目	日目	日目	
診察日は空欄に○をつけましょう				
体温	℃	℃	℃	
食欲	○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×	
吐き気	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
皮膚の異常	あり・なし ()	あり・なし ()	あり・なし ()	
体調の変化や気になること				

サイクル

日付	月 日	月 日	月 日	
治療からの日数	日目	日目	日目	
診察日は空欄に○をつけましょう				
体温	℃	℃	℃	
食欲	○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×	
吐き気	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
皮膚の異常	あり・なし ()	あり・なし ()	あり・なし ()	
体調の変化や気になること				

月 日	月 日	月 日	月 日
日目	日目	日目	日目
℃	℃	℃	℃
○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×
あり・なし	あり・なし	あり・なし	あり・なし
あり・なし ()	あり・なし ()	あり・なし ()	あり・なし ()

血液検査

月 日

ヘモグロビン

$\frac{\text{g}}{\text{dl}}$

白血球数

$\frac{1}{\mu\text{l}}$

血小板数

$\frac{1}{\mu\text{l}}$

月 日	月 日	月 日	月 日
日目	日目	日目	日目
℃	℃	℃	℃
○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×
あり・なし	あり・なし	あり・なし	あり・なし
あり・なし ()	あり・なし ()	あり・なし ()	あり・なし ()

血液検査

月 日

ヘモグロビン

$\frac{\text{g}}{\text{dl}}$

白血球数

$\frac{1}{\mu\text{l}}$

血小板数

$\frac{1}{\mu\text{l}}$

サイクル

日付	月 日	月 日	月 日	
治療からの日数	日目	日目	日目	
診察日は空欄に○をつけましょう				
体温	℃	℃	℃	
食欲	○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×	
吐き気	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
皮膚の異常	あり・なし ()	あり・なし ()	あり・なし ()	
体調の変化や気になること				

サイクル

日付	月 日	月 日	月 日	
治療からの日数	日目	日目	日目	
診察日は空欄に○をつけましょう				
体温	℃	℃	℃	
食欲	○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×	
吐き気	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
皮膚の異常	あり・なし ()	あり・なし ()	あり・なし ()	
体調の変化や気になること				

月 日	月 日	月 日	月 日
日目	日目	日目	日目
℃	℃	℃	℃
○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×
あり・なし	あり・なし	あり・なし	あり・なし
あり・なし ()	あり・なし ()	あり・なし ()	あり・なし ()

血液検査

月 日

ヘモグロビン

$\frac{g}{dl}$

白血球数

μl

血小板数

μl

月 日	月 日	月 日	月 日
日目	日目	日目	日目
℃	℃	℃	℃
○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×
あり・なし	あり・なし	あり・なし	あり・なし
あり・なし ()	あり・なし ()	あり・なし ()	あり・なし ()

血液検査

月 日

ヘモグロビン

$\frac{g}{dl}$

白血球数

μl

血小板数

μl

サイクル

日付	月 日	月 日	月 日	
治療からの日数	日目	日目	日目	
診察日は空欄に○をつけましょう				
体温	℃	℃	℃	
食欲	○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×	
吐き気	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
皮膚の異常	あり・なし ()	あり・なし ()	あり・なし ()	
体調の変化や気になること				

サイクル

日付	月 日	月 日	月 日	
治療からの日数	日目	日目	日目	
診察日は空欄に○をつけましょう				
体温	℃	℃	℃	
食欲	○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×	
吐き気	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
皮膚の異常	あり・なし ()	あり・なし ()	あり・なし ()	
体調の変化や気になること				

月 日	月 日	月 日	月 日
日目	日目	日目	日目
℃	℃	℃	℃
○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×
あり・なし	あり・なし	あり・なし	あり・なし
あり・なし ()	あり・なし ()	あり・なし ()	あり・なし ()

血液検査

月 日

ヘモグロビン

$\frac{\text{g}}{\text{dL}}$

白血球数

μL

血小板数

μL

月 日	月 日	月 日	月 日
日目	日目	日目	日目
℃	℃	℃	℃
○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×
あり・なし	あり・なし	あり・なし	あり・なし
あり・なし ()	あり・なし ()	あり・なし ()	あり・なし ()

血液検査

月 日

ヘモグロビン

$\frac{\text{g}}{\text{dL}}$

白血球数

μL

血小板数

μL

サイクル

日付	月 日	月 日	月 日	
治療からの日数	日目	日目	日目	
診察日は空欄に○をつけましょう				
体温	℃	℃	℃	
食欲	○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×	
吐き気	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
皮膚の異常	あり・なし ()	あり・なし ()	あり・なし ()	
体調の変化や気になること				

サイクル

日付	月 日	月 日	月 日	
治療からの日数	日目	日目	日目	
診察日は空欄に○をつけましょう				
体温	℃	℃	℃	
食欲	○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×	
吐き気	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
皮膚の異常	あり・なし ()	あり・なし ()	あり・なし ()	
体調の変化や気になること				

月 日	月 日	月 日	月 日
日目	日目	日目	日目
℃	℃	℃	℃
○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×
あり・なし	あり・なし	あり・なし	あり・なし
あり・なし ()	あり・なし ()	あり・なし ()	あり・なし ()

血液検査

月 日

ヘモグロビン

g/dl

白血球数

μl

血小板数

μl

月 日	月 日	月 日	月 日
日目	日目	日目	日目
℃	℃	℃	℃
○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×
あり・なし	あり・なし	あり・なし	あり・なし
あり・なし ()	あり・なし ()	あり・なし ()	あり・なし ()

血液検査

月 日

ヘモグロビン

g/dl

白血球数

μl

血小板数

μl

サイクル

日付	月 日	月 日	月 日	
治療からの日数	日目	日目	日目	
診察日は空欄に○をつけましょう				
体温	℃	℃	℃	
食欲	○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×	
吐き気	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
皮膚の異常	あり・なし ()	あり・なし ()	あり・なし ()	
体調の変化や気になること				

サイクル

日付	月 日	月 日	月 日	
治療からの日数	日目	日目	日目	
診察日は空欄に○をつけましょう				
体温	℃	℃	℃	
食欲	○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×	
吐き気	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
皮膚の異常	あり・なし ()	あり・なし ()	あり・なし ()	
体調の変化や気になること				

月	日	月	日	月	日	月	日	
	日目		日目		日目		日目	
	℃		℃		℃		℃	
○	△	×	○	△	×	○	△	×
あり・なし			あり・なし			あり・なし		
あり・なし	()		あり・なし	()		あり・なし	()	

血液検査

月 日

ヘモグロビン

$\frac{g}{dl}$

白血球数

μl

血小板数

μl

月	日	月	日	月	日	月	日	
	日目		日目		日目		日目	
	℃		℃		℃		℃	
○	△	×	○	△	×	○	△	×
あり・なし			あり・なし			あり・なし		
あり・なし	()		あり・なし	()		あり・なし	()	

血液検査

月 日

ヘモグロビン

$\frac{g}{dl}$

白血球数

μl

血小板数

μl

サイクル

日付	月 日	月 日	月 日	
治療からの日数	日目	日目	日目	
診察日は空欄に○をつけましょう				
体温	℃	℃	℃	
食欲	○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×	
吐き気	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
皮膚の異常	あり・なし ()	あり・なし ()	あり・なし ()	
体調の変化や気になること				

サイクル

日付	月 日	月 日	月 日	
治療からの日数	日目	日目	日目	
診察日は空欄に○をつけましょう				
体温	℃	℃	℃	
食欲	○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×	
吐き気	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
皮膚の異常	あり・なし ()	あり・なし ()	あり・なし ()	
体調の変化や気になること				

月	日	月	日	月	日	月	日	
日目		日目		日目		日目		
℃		℃		℃		℃		
○	△	×	○	△	×	○	△	×
あり・なし		あり・なし		あり・なし		あり・なし		
あり・なし ()		あり・なし ()		あり・なし ()		あり・なし ()		

血液検査

月 日

ヘモグロビン

$\frac{\text{g}}{\text{dl}}$

白血球数

μl

血小板数

μl

月	日	月	日	月	日	月	日	
日目		日目		日目		日目		
℃		℃		℃		℃		
○	△	×	○	△	×	○	△	×
あり・なし		あり・なし		あり・なし		あり・なし		
あり・なし ()		あり・なし ()		あり・なし ()		あり・なし ()		

血液検査

月 日

ヘモグロビン

$\frac{\text{g}}{\text{dl}}$

白血球数

μl

血小板数

μl

サイクル

日付	月 日	月 日	月 日	
治療からの日数	日目	日目	日目	
診察日は空欄に○をつけましょう				
体温	℃	℃	℃	
食欲	○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×	
吐き気	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
皮膚の異常	あり・なし ()	あり・なし ()	あり・なし ()	
体調の変化や気になること				

サイクル

日付	月 日	月 日	月 日	
治療からの日数	日目	日目	日目	
診察日は空欄に○をつけましょう				
体温	℃	℃	℃	
食欲	○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×	
吐き気	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
皮膚の異常	あり・なし ()	あり・なし ()	あり・なし ()	
体調の変化や気になること				

月	日	月	日	月	日	月	日	
	日目		日目		日目		日目	
	℃		℃		℃		℃	
○	△	×	○	△	×	○	△	×
あり・なし			あり・なし			あり・なし		
あり・なし	()		あり・なし	()		あり・なし	()	

血液検査

月 日

ヘモグロビン

$\frac{g}{dl}$

白血球数

μl

血小板数

μl

月	日	月	日	月	日	月	日	
	日目		日目		日目		日目	
	℃		℃		℃		℃	
○	△	×	○	△	×	○	△	×
あり・なし			あり・なし			あり・なし		
あり・なし	()		あり・なし	()		あり・なし	()	

血液検査

月 日

ヘモグロビン

$\frac{g}{dl}$

白血球数

μl

血小板数

μl

サイクル

日付	月 日	月 日	月 日	
治療からの日数	日目	日目	日目	
診察日は空欄に○をつけましょう				
体温	℃	℃	℃	
食欲	○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×	
吐き気	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
皮膚の異常	あり・なし ()	あり・なし ()	あり・なし ()	
体調の変化や気になること				

サイクル

日付	月 日	月 日	月 日	
治療からの日数	日目	日目	日目	
診察日は空欄に○をつけましょう				
体温	℃	℃	℃	
食欲	○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×	
吐き気	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
皮膚の異常	あり・なし ()	あり・なし ()	あり・なし ()	
体調の変化や気になること				

月 日	月 日	月 日	月 日
日目	日目	日目	日目
℃	℃	℃	℃
○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×
あり・なし	あり・なし	あり・なし	あり・なし
あり・なし ()	あり・なし ()	あり・なし ()	あり・なし ()

血液検査

月 日

ヘモグロビン

$\frac{g}{dl}$

白血球数

μl

血小板数

μl

月 日	月 日	月 日	月 日
日目	日目	日目	日目
℃	℃	℃	℃
○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×
あり・なし	あり・なし	あり・なし	あり・なし
あり・なし ()	あり・なし ()	あり・なし ()	あり・なし ()

血液検査

月 日

ヘモグロビン

$\frac{g}{dl}$

白血球数

μl

血小板数

μl

サイクル

日付	月 日	月 日	月 日	
治療からの日数	日目	日目	日目	
診察日は空欄に○をつけましょう				
体温	℃	℃	℃	
食欲	○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×	
吐き気	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
皮膚の異常	あり・なし ()	あり・なし ()	あり・なし ()	
体調の変化や気になること				

サイクル

日付	月 日	月 日	月 日	
治療からの日数	日目	日目	日目	
診察日は空欄に○をつけましょう				
体温	℃	℃	℃	
食欲	○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×	
吐き気	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
皮膚の異常	あり・なし ()	あり・なし ()	あり・なし ()	
体調の変化や気になること				

月 日	月 日	月 日	月 日
日目	日目	日目	日目
℃	℃	℃	℃
○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×
あり・なし	あり・なし	あり・なし	あり・なし
あり・なし ()	あり・なし ()	あり・なし ()	あり・なし ()

血液検査

月 日

ヘモグロビン

$\frac{g}{dl}$

白血球数

μl

血小板数

μl

月 日	月 日	月 日	月 日
日目	日目	日目	日目
℃	℃	℃	℃
○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×
あり・なし	あり・なし	あり・なし	あり・なし
あり・なし ()	あり・なし ()	あり・なし ()	あり・なし ()

血液検査

月 日

ヘモグロビン

$\frac{g}{dl}$

白血球数

μl

血小板数

μl

受診時に伝えたいこと 質問したいことのメモ

日付	メモ
	<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 治療について<input type="checkbox"/> 副作用について<input type="checkbox"/> 日常生活について<input type="checkbox"/> その他 <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>
	<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 治療について<input type="checkbox"/> 副作用について<input type="checkbox"/> 日常生活について<input type="checkbox"/> その他 <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>

受診時に伝えたいこと 質問したいことのメモ

日付	メモ
	<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 治療について<input type="checkbox"/> 副作用について<input type="checkbox"/> 日常生活について<input type="checkbox"/> その他 <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>
	<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 治療について<input type="checkbox"/> 副作用について<input type="checkbox"/> 日常生活について<input type="checkbox"/> その他 <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>

病 院 名：

担当医師名：

緊急連絡先：

製造販売元



シンバイオ製薬株式会社

SyB-TRA/B2002
2022年3月改訂